

ミュージアム・インクルージョン・プロジェクト訪問記録

人と防災未来センター	
カテゴリー:	
所在地: 神戸市中央区	
調査隊: ① 芦屋特支校 PTA(訪問日:2023.11.22) ② 精神・身体障害(訪問日:2023.11.17)	
障害種別:①知的障害 ②精神/身体障害	プロジェクト参加への動機: ・昨年度、考古博物館の取り組みを聞き、「人と防災未来センター」として取り組むこととした。 ・センターの研究プロジェクトとして行う。
PR したいところ: ・阪神・淡路大震災の経験と教訓を、将来に生かしてもらいたい。 ・防災フィールド、わかりやすい展示、体験などで、楽しみながら学べる。映像や体験のブースもあるので、未経験の子どもでも疑似体験ができる。 ・館内には展示や防災知識を説明してくれるボランティアを配置している。 震災体験者もいるので、直接経験を聞くことが出来る。 ・研究員による最新の情報や研究を展示している。 ・広く震災のことを解説。	
特別な配慮を必要とする人(高齢者・障害者・外国人など)向けのプログラム・配布物がありますか？ ・外国の方は、団体、個人とも多く来館している。英語ができるガイドボランティアが 4 人いる。「英語ガイドが必要」と事前連絡があれば対応している。 ・館内展示に英字のテロップあり。 ・ところどころに中国語の説明あり。 ・疑似体験後の映像には、翻訳機(英語、中国語)あり。 ・夏休みに「防災未来学校」として、ほぼ毎日日替わりで子ども向けプログラムを行う。 ・小学校など学校単位で来館の時は、「防災セミナー」として研究員がミニセミナーを行う。	
障害者への対応をしていることはありますか？	

- ・受付で手帳提示者には割引有。介助者も割引あり。
- ・スマホアプリミライロも対応可。
- ・震災体験はショッキングに思う方もいるので、自閉症の方や、変化に弱い方は、パニックになりかけて出ていくこともある。それを前提にすべての方に中に入るときに「途中で退出可能です」と声かけしています。

障害のある人が来館されて、困ったこと／どうしていいかわからなかったことはありますか？

- ・上の方の展示が見えない(車いすの方)
- ・展示の字が多くて小さい(知的障害の子)
- ・「障害」とひとと言っても種別によっても対応が違い、個別性が高いので、全体に対応するのは難しい。
- ・知的…軽度～重度、どのあたりに基準を合わせたらよいのか
- ・身体…アクセスを整える必要
- ・視覚、聴覚と課題多い。
- ・個別性が高い人に、ボランティアさんがどこまで対応できるのか課題。

調 査 報 告

よかった点

① 知的障害

- ・東館が VR など体験型のコーナーが多く楽しみながら学ぶことができた。
ゲームの操作方法がわからなかったが、ガイドの方がいてくれたのでよかった
- ・津波の仕組みの装置がわかりやすかった。語り部さんが使い方を教えてくれたのもよかった。

② 精神・身体障碍

- ・実際の体験をしたかのような映像から入り、順を追って復興までを追体験させるのはよくできていると感じた
- ・肉筆で書かれた様々な展示物が被災当時の状況をリアルに伝えていたと思う

調査隊が「こうすればもっと楽しめる」と感じた点

(館としての考えられる対応策→(A)すぐにやれそうなのでやってみよう

(B)色々な内容を精査して中期的に計画しよう

(C)長期的に検討課題としよう

(D)対応が難しい・できない

(A)(C)すぐに対応できる可能性がある内容と、中長期的に検討すればできそうなこと、対応が難しいことを分別して取り組みたい。

プログラム

① 知的障害

- ・体験できるものがもっとあったら楽しめると思う。ディスカバリー라운ジのクイズコーナーにもう少し簡単なものがあればよいと思う。タッチパネルの使い方がよくわからなかった
- ・地震の体験ができるとよりリアルの地震を感じられると思う

→地震体験は、他の防災センターでも経験ができるので、弊センターではあえて設けていない。

1.17 シアター(最初の阪神・淡路大震災の映像体験ができるシアター)を設けている。

・ゲームの操作方法がわかりにくかったので、一目でわかるピクトグラムのような説明があればいいと思う

→東館サイエンスフィールドのゲームは、ボランティアスタッフが説明・サポートするようにしている。

・各ポイントを回ってクロスワードを完成させるイベントがあったが、知的障害者にはスタンプラリーのほうがわかりやすくやってみようと思う。

展 示

① 知的障害

・展示物やシアターの文字が細かいので、文字を大きくしたりゆっくりした声でガイドしてあげるとわかりやすい。

→今後の課題。

・震災追体験フロアをとばせるような案内がわかりやすいといい。

→アテンダントのアナウンスの内容を検討。

・スマートフォン用のガイドシステムにひらがなを打ってもらえるといい。

→今後の課題。

・明るさと光(フラッシュ)の工夫があればいいと思う。暗い部屋や大音響がニガテな人もいるので館内がもう少し明るく、音も少し小さめだと入りやすいと思う

→演出上、観覧できない方はスキップできるよう配慮している。

・触ってよい、ダメなものの案内表示が曖昧に感じたので一目でわかる表示があればいい

→今後の課題

・西館が特に大人向けの施設のように感じた。子どもや障害者も対象にするのであれば、わかりやすい言葉での説明があったほうがいい

→西館は阪神・淡路大震災での教訓をできる限り多く網羅的に伝えることをミッションにしているため、どうしても文字数が多くなる。

・展示のテーマが難しいのでどうすれば子どもに伝わるか思案した。情報量がとても多いので、本当に伝えなくてはいけないことが絞られているといい(どれも大切だとは思いますが)

・文字での説明が多いので理解するのに時間がかかる。展示物の内容などを案内してくれる人がいると理解しやすい

→館内を循環しているボランティアガイドが案内できる

・館内の説明がパンフレットではなく目と音で事前にわかるYouTubeなどで見ることができたらいいと思う。トイレがどこにあるかなども紹介されているとありがたい

→フロアガイドはウェブページにあり、多目的トイレの位置も分かるようになっている。

② 精神・身体障害

- ・全体的に情報を詰め込み過ぎで似たような展示が食傷気味になった
 - 西館は阪神・淡路大震災での教訓をできる限り多く網羅的に伝えることをミッションにしているため、どうしても文字数が多くなる。
- ・立ったままで展示解説を読むのは少し辛い。スマホで読める(聞ける)のは便利だが、座って聴こうとすると展示物が目の前にないというジレンマがある
 - 展示物が立って見ることを前提にした設計になっていること、また、ミュージアムとして来館者に見てもらいたい展示物が多くあることで天井付近まで展示物がある場合があり、障害のある方に見にくいと改めて感じた。
- ・字幕のフォントの大きさや掲載位置、スピードなどを考慮しないと観客に内容が伝わらない。(展示解説のインドネシア語は文字が小さすぎた。)
障害の種類による特性に応じた掲載の工夫が欲しい
 - 今後の課題。

施設

① 知的障害

- ・女子トイレが狭いと感じる

② 精神・身体障害

- ・通路が狭く感じられた。車椅子が自由に回転できるのか？ストレッチャー式の車椅子は入るスペースがないと感じられた
 - 車いすの方にも来てもらい検証する予定。

受け入れ体制

① 知的障害

- ・語り部さんの説明があるのはよかったと思うが、本人が聞いていられないので失礼になると申し訳なく思う
 - 語りたい思いが強く、話も長いので、思いが一方通行になる場合があるのかもしれないと改めて気づいた。

② 精神・身体障害

- ・最初に回るルートのお勧めだけではなく、全体の俯瞰図(音声案内も)を示してもらえると見やすくなったと思う
 - 今後の課題。

その他

③ 精神・身体障害

- ・情報が多すぎて2時間でも回り切れなかった。体力や持続力に限界のある人も多い。何度でも来館すればよいが、その余裕がない人もいるので、三宮などにサテライト的なものを出してはどうかと思う。(三宮駅前に県が使えるスペースがあると思う)
 - 情報が多いいのは弊センターの課題であると考えている。一方で、多くの教訓を吟味して

いること、情報量が多いことが評価されているという側面もある
・音声案内は音が拡散するので指向性の強いスピーカーではっきり発音したものがよい
→今後の課題

★プロジェクトに参加して

調査隊の感想

① 知的障害

- ・避難勧告が出ても障害児者を連れて避難所には極力行きたくないと思っている。それでも避難所に行かなければならないときの目安を知っておきたいと思った。
- ・販売されている防災グッズは高額なものが多いが、本当に必要なものがどんなものなのかを知っていきたい。また防災グッズをゲーム的にチェックしていくなどすれば身についていくかと思う。
- ・大人目線でも西館4階は少ししんどく感じた。4 階を飛ばしたり3階から行ける方法があつて欲しい

② 精神・身体障害

- ・今回調査に訪問した組織の中で、障害者のことを館の研究課題として考えている姿に好感が持てた。障害者のひとりとしてお礼を申し上げたい

施設の感想(気づきや発見)

今年度(2023 年度)は、精神・身体障害のある方、知的障害のある生徒さんの保護者の方々に調査隊として、お越しいただきました。調査隊の皆さまと一緒に回らせていただいたことで、以前から指摘されていた課題が、具体的にどのような状況のもとで障壁となるのかについて気づくことができました。また、新たに気付いた課題もありました。改めてお礼を申し上げます。

来年度にもいくつかの検証を実施したいと考えています。例えば、知的障害のある生徒さんの調査隊にお越しいただけると予定となっております。また、車いすユーザーの方で本検証にぜひ協力したいと申し出てくれた人等もいます。障害のある方々は個別性が高く多様なニーズがあるため、どこに照準を合わせて整備していくかということも課題であると考えています。可能な限り多くの方のご意見をお聞きして参考にさせていただければと考えています。

弊センターとしては、合理的配慮のもと、すべての人に分かりやすい情報を提供することが責務であると感じています。今回いただいた知見をもとに、すぐに対応が可能である可能性があるものと、中長期的な視野に立って対応をするものと、対応が難しいものと弁別し、検討していきたいと思います。

情報が多いというご指摘に関しては、以前から課題であるとされていましたが、人と防災未来センターが多くの教訓を吟味してそれを展示していることが市民や国から高い評価を受けているという側面もあり、非常に難しい課題であると認識しています。

以上の意見は、本プロジェクトの責任者である正井の個人的な意見を含んでおります。ご承知おきいただけますようお願い申し上げます。